

タイプⅠ 記入要領

令和6年度大学教育再生戦略推進費

「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」計画調書

		【タイプⅠ】	
大学名			機関番号
プログラム名	【和文】	申請するプログラム内容を端的に表す名称を全角40字程度で記入。	
	【英文】	英訳した名称を記入。	
事業者 (大学の設置者)	ふりがな 氏名	①科学研究費補助金の申請に使用する5ケタの機関番号を記入。 (https://www-kaken.jstps.go.jp/kaken1/kikanList.do) ②複数大学が参加して実施するプログラムの場合は、主となる1つの機関が代表校として申請すること。	
申請者 (大学の学長)	ふりがな 氏名	大学の設置者(法人の長)の氏名及び所属・職名を記入。	
事業責任者	ふりがな 氏名	大学に所属する常勤の役員又は教員で、中心的な役割を果たし、責任を持つ「事業責任者」を選任し、記入。	

連携してプログラムを実施する機関(国内連携大学等)	
	大学等名
1	連携してプログラムを実施する機関(国内連携大学等)の上限はなし。 ただし、国内連携大学においても、「公募要領」で定める、申請資格及び申請要件を満たすこと。 ※記入欄が不足する場合は、行追加すること。
2	
3	
4	複数大学連携での申請の場合、計画調書内の各項目において、連携大学分も含めた内容にて調書作成が必要な箇所あり。 ※記入要領内、青網囲み箇所が該当。 (提出時は網掛の必要なし)。

本プログラム経費		(単位:千円)		※千円未満は切り捨て			
年度(令和)	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	合計
プログラム規模							
内訳	補助金申請額	・「プログラム規模」、「補助金申請額」、及び「大学負担額」の金額を年度ごとに記入。 なお、「プログラム規模」欄は、「補助金申請額」と「大学負担額」の合計を記入。 (金額は千円単位とし、千円未満の端数は切り捨てとする)。					
	大学負担額	・ 審査項目⑥ 補助期間における各経費の明細【年度ごとに1ページ】シートと一致すること。					
タイプⅠとタイプⅡの両方に申請する場合は、どちらの採択を優先して希望するか記載							

※1. 文部科学省や他省庁が実施する他の補助金は「大学負担額」に計上しないこと。
 ※2. 国立大学における運営費交付金等、代表申請大学として、両タイプ(Ⅰ、Ⅱ)に申請する場合、
 「大学負担額」に計上せず、「タイプⅠ」又は「タイプⅡ」と記載すること。
 (なお、代表申請大学としてどちらか1つのタイプのみ申請する場合は、空欄とする。)

補助金申請額について
 補助期間終了後の継続的なプログラム実施を図る観点から、プログラムにおける補助金の配分額については、
 補助期間最終年度の2年前年は当初配分額の70%に、補助期間最終年度の前年は当初配分額の50%に、最終年度は当初配分額の30%に通減させることを予定しているため、補助期間中の自己負担比率をどのように高めていくかを明確にすること。

本プログラム事務総括者部課の連絡先				
部課名	採択結果の通知等を使用。 必ず連絡対応可能な担当者を記入。			
責任者	ふりがな		所属・職名	
	氏名			
担当者	ふりがな		所属・職名	
	氏名			
	電話番号		緊急連絡先	
	Email(主)		Email(副)	

※原則として、当該機関事務局の担当部課とし、責任者は課長相当職、担当者は係長相当職とします。

Email(主)については、できる限り係や課などで共有できるグループメールとし、必ず(副)にも別のアドレスを記入してください。

① プログラムの概念図【1 ページ以内】※プログラムの全体像が分かる概念図を作成してください。

全体像が分かるように、図表を用いて示すこと。
なお、作成にあたっては、プログラムの内容が具体的に把握できるように留意すること。

② 工程表【1 ページ以内】

※全体計画を把握するため、6 年間の工程表を作成してください。

全体計画を把握するため、横軸を年次（左：過去→右：未来）として取組や活動を描画した 6 年間の工程表を作成すること。
年表記は、西暦で記入すること。

③ 国内大学等の連携図【１ページ以内】

①複数連携する場合は、連携内容や役割分担がわかる図を作成。

※「連携してプログラムを実施する機関(国内連携大学等)」欄に記載した、
全ての国内連携大学等の内容を盛り込むこと。

②単独大学申請での取組の場合は、その理由を簡潔に記入。

(ページ上限までの記入の必要はなし。)

審査項目① 大学の理念等を踏まえた本プログラムの位置付け及び大学の国際化に向けた実施基盤

以下の（１）～（３）を記入してください。

（１）大学全体の改革における位置付け 【１ページ以内】

- 現在までの大学全体の改革に関する取組状況、現在抱えている課題及び定量的な現状分析、それらを踏まえた今後の改革構想を記入してください。その際、その改革構想に占める本プログラム計画の位置付けを明確にしてください。

・作成の際には、記入分量確保のため、緑枠囲み部分は削除しても可とする。
その他の箇所は、削除を行わないこと。
※以下同様

【全項目共通事項】

- ・以下の内容は、簡潔に、分かりやすく記入（ページ上限まで作成する必要はなし）すること。
- ・文字の大きさは１０．５ポイントで記入すること。

・○印の観点に留意し、各項目について明確に記入すること。
・年表記は、西暦で記入すること。
※ 以下同様

(2) 大学の国際化の実績及び今後の計画 【2 ページ以内】

- 申請プログラム計画の基礎となる大学の国際化の取組状況、現在抱えている課題及び定量的な現状分析、それらを踏まえた今後の国際化の発展・改善計画について記入してください。
- 「スーパーグローバル大学創出支援事業」の採択大学においては、必須指標の未達成項目があれば、その取組状況を記載してください。(申請プログラム計画と関連するものを3つ程度記載すること。) また、今後の改善計画を記載してください。

「スーパーグローバル大学創出支援事業（以下、「SGU」という。）」の採択大学においては、申請プログラム計画と関連する SGU 必須指標の取組状況を記載。
なお、SGU 必須指標については、下記リンク「事後評価要項」（p2～3）のうち、大学が共通して取り組む項目を指す。
(<https://www.jsps.go.jp/file/storage/j-sgu/data/jigo/kobo/sgu-jigo-youkou.pdf>)

(SGU 指標の取組状況)

(SGU 指標の改善計画)

【SGU の採択大学が、申請を行う場合】

- ・未達成項目が3つを超えている場合は、申請プログラム計画との関連性が高いものから3つ程度記載すること。
- ・未達成項目がない場合はその旨記載すること。

【SGU の採択大学ではない大学が、申請を行う場合】

- ・点線以下の内容は削除せず、「SGU の採択大学ではなかった」旨、SGU 指標の取組状況及び SGU 指標の改善計画欄にそれぞれ記載すること。

(3) プログラム実現に向けた体制構築等 【2 ページ以内】

- プログラムの実現に向けた学内の組織的な実施体制整備(学長を中心とした体制の整備、FD・SD の実施体制の整備、学内への周知徹底を含む)、客観的データに基づいた事業計画の改善や見直しを行う PDCA サイクルの構築等について記入してください。

審査項目② プログラム計画の具体的な内容

○ (1)～(4)について、達成目標、これまでの教育改革の取組及び今後の方針に照らして、妥当性・実現性のある計画を記入してください。その際、以下の内容の実現に向けた計画を明確にしてください。

- ・ 育成する人物像の設定
- ・ 多文化共修
- ・ 日本人学生の送り出し、外国人留学生の受入れのための取組

(1) 育成する人物像の設定【200字程度】

◆ 以下の必須となる取組を含めて記入してください。

【必須となる取組】

- プログラムで育成する人物像を、大学等の強み・特色を活かし、各取組の内容との整合性にも留意しつつ具体的に設定すること。

- ・ ○印の観点に留意し、各項目について明確に記入すること。
 - ・ 年表記は、西暦で記入すること。
- ※ 以下同様

(2—1) 多文化共修 【3 ページ以内】

※期待される取組(加点事項)がある場合は、該当部分を青字で記入してください。

◆ 以下の必須となる取組を含めて記入してください。

【必須となる取組】

- 特定の学部・研究科等に限定せず、全ての学部学生、並びに全てないし一部の修士学生を対象としたカリキュラムに多文化共修科目を含修科目として取り入れること。この修科目は、英語を中心とするが、国語で実施すること。ただし、地域言語で実施すること。その他、正課外科目として実施可能とする。
・期待される取組(加点事項)は青字で記入すること。
なお、期待される取組を計画・実施する場合には、可能な限り、関連した任意指標を設定すること。
(審査項目③成果目標の設定 8)その他 任意指標
- 多文化共修科目は、地方公共団体や企業、NPO・NGO・国際機関等と連携し、これらの機関が所在ないし活動する国内外の地域が抱える課題をテーマとするものを含むこと。特に博士前期課程においては、より社会課題の解決策の提案や社会実装に資する取組(政策提言や企業、社会実装活動等)を含むこと。
- 多文化共修に関わる教員を育成し、カリキュラムや教育環境の国際通用性を向上させるため、例えば、多文化共修科目の授業設計や地域における課題設定、教材選択等についてのファカルティ・ディベロップメント(FD)を行うこと。
- 留学経験のある日本人学生や外国人留学生、多文化共修科目等の既修得学生等をティーチング・アシスタント(TA)、スチューデント・アシスタント(SA)などとして積極的に育成・採用・活用すること。それにより、これらの学生が主体となった自律的・持続的多文化共修のための体制を整備すること。

【期待される取組(加点事項)】

- 多文化共修を通じて海外留学への関心を掘り起こし、日本人学生を積極的に海外留学に送り出すための環境を整備すること。
- 多文化共修教育に必要な新たな外国人教員を雇用すること。

【これまでの取組状況】

【計画内容】

- ・【これまでの取組状況】及びそれを踏まえた【計画内容】を具体的に記入すること。
- ・簡潔に、分かりやすく記入すること。

(2—2) 多文化共修科目 【2 ページ以内】

- ◆ 「審査項目④(3) 多文化共修科目一覧表」に記載する科目のうち、特色のある正課の科目 5 科目及び正課外
の取組 3 件までについて、具体的アクティビティ、連携先がある場合は関わり方、到達目標などを記載してく
ださい。なお、正課の科目のうち 1 科目以上は、必修の科目について記載してください。

正課の科目

1	【科目名 (科目区分)】
	【概要】 【正課の科目】 ・「多文化共修」の実現のために必要な正課科目を配置 (審査項目④プログラム計画の適切性 (3-1) 多文化共修科目一覧表【正課科目】) し、その中から抜粋して、具体的な概要等を記載すること。 ・必修科目 → 選択必修科目 → 選択科目の順に記載すること。 ・(科目区分) には、(必修)、(選択必修)、(選択) のいずれかを記載すること。 ・記載する科目数については、1 科目以上 5 科目以下とする。 (うち、1 科目は必修の科目) ・5 科目未満で記載する際は、不要行を削除すること。
2	【科目名 (科目区分)】 【概要】
3	【科目名 (科目区分)】 【概要】
4	【科目名 (科目区分)】 【概要】
5	【科目名 (科目区分)】 【概要】

審査項目④ 「(3-1) 多文化共修科目一覧表【正課科目】」より、特色ある科目について、記入すること。なお、上記一覧表の 1 行目に記入した、正課科目から順に作成すること。

例) 本審査項目欄に 5 科目記入する場合は、上記一覧表に記入した 1～5 行目の正課科目の内容を作成すること。

※該当がある場合に記載。

正課外の実施

1	【取組名】
	【概要】
2	【取組名】
	【概要】
3	【取組名】
	【概要】

【正課外の実施】

- ・ 該当がある場合に記載。
- ・ 該当がない場合は、前ページの「正課の科目」に関する内容の記入分量確保のため、緑枠囲み部分は削除しても可とする。（※題目「正課外の実施」は削除しないこと。）
- ・ 「多文化共修」の実現のために必要な正課外科目を配置（審査項目④プログラム計画の適切性（3-2）多文化共修科目一覧表【正課外科目】）し、その中から抜粋して、概要等を記載すること。
- ・ 正課外の実施がない場合や、具体的に記載することが難しい場合は、記載がなくても可とする。（最低科目数はなし。）
- ・ 記載する科目数については、3科目までとする。
- ・ 該当があり、且つ3科目未満で記載する際は、不要行を削除すること。

審査項目④ 「（3-2）多文化共修科目一覧表【正課外科目】」より、特色ある科目について、具体的に記入すること。なお、上記一覧表の1行目に記入した、正課外科目から順に作成すること。

(3) 日本人学生の送り出し、外国人留学生の受入れのための取組【3ページ以内】

※期待される取組(加点事項)がある場合は、該当部分を青字で記入してください。

◆ 以下の必須となる取組を含めて記入してください。

【必須となる取組】

- 地方公共団体や地域の企業等との連携により、外国人留学生の受入れ・定着支援を推進すること。
- 中間評価までに「留学生就職促進教育プログラム認定制度」の認定を受けること。

【期待される取組(加点事項)】

- 学位等のデジタル学修歴証明や、多文化共修以外の科目を含むマイクロレデンシャルの発行・活用のための検討・導入を図ること。なお、これらの検討・導入においては、将来的な自大学等の学位等の国際通用性を向上させる観点から、全学的な取組とすることや学習管理システム(LMS)との連携・接続等を図ることが望ましい。
- 例えば、外国人学生を対象としたアドバンス・プレースメント科目の開発・実施、新たな留学生の獲得やプログラム運営費・奨学金の充実等につながるアルムナイの活性化、(多文化共修科目以外の科目も含む)英語のみで卒業・修了できるコースの新設・充実や当該コースを卒業・修了した留学生の就職先の新規開拓等の外国人留学生の早期・組織的な獲得のための取組等を推進すること。

【これまでの取組状況】

・ 期待される取組(加点事項)は青字で記入すること。
なお、期待される取組を計画・実施する場合には、可能な限り、
関連した任意指標を設定すること。
(審査項目③成果目標の設定 8)その他 任意指標)

・ 【これまでの取組状況】及びそれを踏まえた【計画内容】を具体的に記入すること。
・ 簡潔に、分かりやすく記入すること。

【計画内容】

※該当がない場合は、「該当なし」と記入。

(4) (該当あれば) その他 【1 ページ以内】

『審査項目②：プログラム計画の具体的な内容』における、「プログラム計画の妥当性」、「プログラム計画の実現性」、「事業目的適合性」について、その他何か記入すべきものがあれば作成すること。
(※無理に作成を要するものではない。)

審査項目③ 成果目標の設定

○ 現状分析に基づいて、実施時期別、定量的な数値目標を明確に設定してください。

なお、「連携してプログラムを実施する機関」がある場合は、その機関毎に指標を作成してください。

1) 多文化共修科目数・参加学生数【表を除いて1ページ以内】

【実績及び目標設定】

【概要】

審査項目③：成果目標の設定 1)～8) の項目について、「計画調書1(別紙)」の該当する内容(以下、「データ集」という。)を作成し、それぞれ【実績及び目標設定】箇所に貼付すること。データ集は、以下の分類(分類A・B)により、それぞれ貼付すること。

●分類A：単独申請の場合

- ・データ集のうち、同じ内容のシートが複数あるものについては、【代表校】となっているシートを使用し、貼付すること。(※【合計】シート及び【連携】シートは、使用しないこと。)

●分類B：複数大学連携の場合

- ・データ集のうち、同じ内容のシートが複数あるものについては、【代表校】シートにて申請大学分を作成し、【連携校】シートにて、連携大学毎に【連携校1】シートから順に使用し、作成すること。連携校シート作成にあたっては、計画調書1枚目に記入した順番とする。

なお、連携校が4つを超える場合は、大学の国際化によるソーシャルインパクト創出事務局支援事業プログラム委員会事務局に一度連絡すること。

貼付方法等については、「審査項目③ 2)～4)」箇所にそれぞれ例示で貼付しているため、参照すること。

- ・(例1) 分類A：「単独申請の場合」且つ「表を除いて【現状分析】及び【計画内容】」が1ページで収まる場合

⇒ 審査項目③ 2) 箇所に例示。

- ・(例2) 分類A：「単独申請の場合」且つ「表も入れて【現状分析】及び【計画内容】」が1ページで収まらない場合

⇒ 審査項目③ 3) 箇所に例示。

- ・(例3) 分類B：複数大学連携の場合

⇒ 審査項目③ 4) 箇所に例示。

【現状分析】

- ・○印の観点に留意し、設定した成果目標に対し、【現状分析】及び【計画内容】を具体的に記入すること。
- ・年表記は、西暦で記入すること。
- ・簡潔に、分かりやすく記入すること（ページ上限まで作成する必要はなし）。
- ・複数連携大学での取組の場合、データ集の貼付については、それぞれ【実績及び目標設定】箇所に貼付する必要があるが、【現状分析】及び【計画内容】ページにおいては、連携大学分の内容も盛り込んだ形で、1 ページ以内で記入すること。

※以下、「審査項目③：成果目標の設定 1) ～8)」項目について同様。

- ・令和5年度（実績値）を踏まえた【現状分析】を明確に記入してください。

※ 以下同様

【計画内容】

- ・上記【現状分析】に基づいた【計画内容】を、令和8年度（中間評価前年度）、令和11年度（事業最終年度）の目標値に関連付けて明確に記入してください。

※ 以下同様

2) 多文化共修科目に関連する担当教員や多文化共修に関連する TA・SA の数

【表を除いて 1 ページ以内】

【実績及び目標設定】

(大学名：●●大学)		各年度 5 月 1 日の数値を記入	
担当教員数	令和 5 年度 (実績値)	令和 8 年度 (目標値)	令和 11 年度 (目標値)
教員総数 (A)			
うち多文化共修科目の担当教員数 (B)			
割合 (B/A)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
		年間の総数 (のべ) の数値を記入	
TA・SA 数	令和 5 年度 (実績値)	令和 8 年度 (目標値)	令和 11 年度 (目標値)
TA・SA 総数 (C)			
うち多文化共修に関連して雇用する TA・SA 数 (D)			

【現】 【貼付方法等例示】

- ・ (例 1) 分類 A : 「単独申請の場合」 且つ 「表を除いて【現状分析】及び【計画内容】」 が 1 ページで収まる場合

- ・ 表下から記載し、【現状分析】及び【計画内容】のどちらもが表を含め、1 ページに収まる場合は、ページをまとめることは可とする。
- ・ ただし、表下から記載し、【現状分析】及び【計画内容】のどちらか一方でも、次ページにわたる場合は、ページの改変は行わないこと。

【計画内容】

※以下、「審査項目③ 成果目標の設定、うち 1) ～8) について」同様。

3) 多文化共修科目に関連して、連携する地方公共団体や企業、NPO・NGO・国際機関等の数
【表を除いて1ページ以内】

【実績及び目標設定】

(大学名：●●大学)	各年度通年の数値を記入		
	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)
連携する地方公共団体の数			
連携する企業等の数			
連携するNGO・NPO・国際機関等の団体			

【貼付方法等例示】

- ・(例2) 分類A:「単独申請の場合」且つ「表も入れて【現状分析】及び【計画内容】」が1ページで収まらない場合

【参考：データ貼付について】

- ・データ集から、該当する項目の表を図の形式で、中央揃えで貼付すること。
(貼付部分は【データ集】記入要領参照)。

【貼り付け方法】

ワードのホームタブ → 貼り付け → 形式を選択して貼り付け

→ 図(拡張メタファイル)を選択

※ 以下同様

【現状分析】

・表下から記載し、【現状分析】及び【計画内容】のどちらか一方でも、次ページにわたる場合は、ページの改変は行わず、【実績及び目標設定】ページで1ページ、【現状分析】及び【計画内容】で次の1ページとする。

※以下、「審査項目③ 成果目標の設定、うち1)～8)について」同様。

【計画内容】

4) 日本人学生の海外留学人数・割合【表を除いて

【貼付方法等例示】

・ (例3) 分類B: 複数大学連携の場合

※要件: 事業計画最終年度の人数が、令和5年度比220%以上もしくは全学生数の3割以上に設定すること

【実績及び目標設定】

データ集うち、以下の順番で貼付。

・ 合計シート ⇒ 代表校シート ⇒ 連携校1・・・

度通年の数値を記入

(合計)				
	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)	令和5年度比
日本人学生数 (A)	0 人	0 人	0 人	
日本人学生の海外留学人数 (B)	0 人	0 人	0 人	#DIV/0!
うち、多文化共修科目に関連して海外留学する 日本人学生数 (C)	0 人	0 人	0 人	
【内訳】				
①短期留学人数	0 人	0 人	0 人	
②中期留学人数	0 人	0 人	0 人	
③長期留学人数	0 人	0 人	0 人	
割合 (B/A)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	

(大学名: ●●大学)

代表校シート

各年度通年の数値を記入

	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)	令和5年度比
日本人学生数 (A)	0 人	0 人	0 人	
日本人学生の海外留学人数 (B)				#DIV/0!
うち、多文化共修科目に関連して海外留学する 日本人学生数 (C)	0 人	0 人	0 人	
【内訳】				
①短期留学人数				
②中期留学人数				
③長期留学人数				
割合 (B/A)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	

データ集の差込みの際に、複数ページにまたがる場合は、次ページ以降に1つの表となるよう、ページを追加すること。

※次ページ参照。

(大学名：▲▲大学)	連携校 1 シート ※連携校が複数ある場合は、以下 同様に差込みすること。			各年度通年の数値を記入	
				令和11年度 標値) 令和5年度比	
日本人学生数 (A)	0 人	0 人	0 人		
日本人学生の海外留学人数 (B)				#DIV/0!	
うち、多文化共修科目に関連して海外留学する 日本人学生数 (C)	0 人	0 人	0 人		
【内訳】					
①短期留学人数					
②中期留学人数					
③長期留学人数					
割合 (B / A)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!		

【現状分析】

【計画内容】

5) 外国人留学生数・割合【表を除いて1ページ以内】

※要件：事業計画最終年度の人数が、令和5年度比140%以上もしくは全学生数の3割以上に設定すること

【実績及び目標設定】

※データ集より、該当の方法により貼付け。

【現状分析】

【計画内容】

6) 外国人留学生の国内及び地域への就職人数・割合【表を除いて1ページ以内】

※要件：事業計画最終年度の進学者を除く国内での就職希望者の6割以上を占めること

【実績及び目標設定】

※データ集より、該当の方法により貼付け。

【現状分析】

【計画内容】

7) プログラム実施の前提となる大学の国際化【表を除いて1ページ以内】

「公募要領」p4の表1に記載する大学の国際化に係る目標 i~iii の項目についての達成目標(※)を設定すること。

(※)(人数または割合) 目標 i: 外国人留学生、目標 ii: 外国人教員、目標 iii: 外国語による授業

〈SGUに採択されていた大学〉

これまでのSGU実施10年間で国際化の基盤を整備してきたことを前提に、全ての項目について、より高い水準の達成目標とすることを求めます。

〈SGUに採択されていない大学〉

1つ以上の項目について、中間評価までに達成する目標を設定すること。他の項目については、事業計画最終年度までに達成する計画とすることが望まれます。

【実績及び目標設定】

※データ集より、該当の方法により貼付け。

- ・7) 項目の指標については、他の指標と異なり、代表申請大学のみ必要とする。
(※複数連携大学での申請の場合でも、連携大学分においては、本要件を求めない
(指標作成不要)ものとする。)

【現状分析】

【計画内容】

※必ず作成すること。

8) その他 任意指標【表を除いて1ページ以内】

【実績及び目標設定】

削除しないこと。

(合計)	各年度任意の数値を記入		
	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)
(指標1)	0	0	0
(指標2)	0	0	0
※各年度通年の数値を記入。			
※(指標1)に設定した●●は、～とする。			
※(指標2)に設定した●●は、～とする。			

- ・必ず任意指標を作成すること。
(事業のアクティビティ、アウトプット及び得られるアウトカムを数値化した任意指標等)
- ・特に、審査項目②プログラム計画の具体的な内容に記載の以下、**加点事項**を記入した場合は、関連した任意指標を設定することが望ましい。
 - (2-1) 多文化共修
 - (3) 日本人学生の送り出し、外国人留学生の受入れのための取組
- ・設定した任意指標の概要が簡潔に分かるよう、差込み表の上段等に適宜入力すること。

- ・複数大学連携での申請の場合、代表申請大学と同一の任意指標を設定すること。
- ・8) その他項目に関しては、任意指標の貼付については、表下段に設定した「※」部分も含め、貼付を行うこと。

【現状分析】

【計画内容】

審査項目④ プログラム計画の適切性

以下の(1)～(3)を記入してください。その際、以下の内容の実現に向けた計画を明確にしてください。

＜大学の経営自律化のための改革＞

- ・ 特定の財源(国からの基盤的経費等を含む)に依存しない、安定的で多様な財源確保のための戦略的経営マネジメント改革を推進すること。
- ・ プログラムの自走化を見据えて、国内外の企業・団体等からの寄附や教育研究経費の配分、人員派遣の受入れなどによるプログラムの運営経費や参加学生の奨学金等の充実を図ること(具体的な支援先や金額、時期等が明記されることが望ましい。)

(1) 年度別の計画 **【2 ページ以内】**

○ 年度ごとのプログラム計画について具体的に記入してください。

【令和6年度】

- ・ 上記＜大学の経営自律化のための改革＞に向けた計画を含めて、プログラム全体の年度別計画を年度毎に、具体的に記入すること。
- ・ 簡潔に、分かりやすく記入すること。

【令和7年度】

【令和8年度】

【令和9年度】

【令和10年度】

【令和11年度】

(2) プログラム計画の継続性 【2 ページ以内】

【継続性を担保するための学内外の体制や仕組みについて】

- ・〈大学の経営自律化のための改革〉に記載の観点に留意すること。
 - ・年表記は、西暦で記入すること。
 - ・簡潔に、分かりやすく記入すること。
- ※以下同様。

【継続性を担保するための資金計画について】

※申請大学：●●大学（1～10）

(3-1) 多文化共修科目一覧表【正課科目】

課 目 番 号	学 期	単 位 数	学 期 (※2)	科目区分	科目名(※3)	開設年度	履修目標人数(※4)		【目標】最終(R11)年度における、 履修目標人数に対する 外国人学生の履修割合(※5)	事業開始3年目までに実施予定の科目を記入
							令和7年度	令和8年度		
1	1	2単位	1学期	必修	●●	既存	100人			科目の概要を最大150字程度で記入して下さい。なお、最大字数まで記入いただく必要はございません。科目名に対応する内容に加え、多文化共修科目であることが分かるよう簡潔に記入すること。また、計画調書の該当ページに貼付けする際は、A4サイズで目視確認ができる大きさに拡大・縮小し貼付すること。(一 参考：140字)
2										
3										
4										
5										
6										
7										
8										
9										
10										

・単独申請の場合

→ 『※申請大学：+ 大学名 + (掲載番号を記入)』

・・・大学が開設する「多文化共修科目（正課科目）」について、データ集にて作成した50科目全てを貼付すること。

※正課科目の設定が50科目未満の場合は、該当する科目分を全て貼付すること。貼付については、記入内容がA4サイズで目視できるサイズで、拡大・縮小等を行い、対応すること。(1～10の貼付は例示)

・ページ数が複数となる場合、上記赤枠囲みの内容を残したうえで、前ページからの連番で貼付すること。

審査項目②「(2-2) 多文化共修科目」欄に記載する特色ある科目については、1行目から順番に記載すること。(※正課科目のうち1科目以上は、必修の科目)

例：) 特色ある科目を5科目、審査項目②「(2-2) 多文化共修科目」に記載する場合は、1行目～5行目にその内容を記入すること。

（3－1）多文化共修科目一覧表 【正課科目】

・単独申請の場合

→ 21 科目以降も同様に記入・貼付。

・複数大学連携での申請の場合

- 「申請大学」分の貼付を単独申請と同様に行った後、
連携校分も同様に対応すること。
- 『※連携校(数字) : + 大学名 + (掲載番号を記入)』

※連携校が多数の場合の記載順については、「計画調書 1」の
1 枚目に記載したとおりとする。

※データ集より、該当の方法により貼付け。

・複数大学連携での申請の場合、「データ集」においては、連携校毎のシート作成が
必要となるが、「計画調書 1」への貼付については、上段の「申請大学」及び他の「連
携校」の貼付科目と合わせて、合計 50 科目分を貼付すること。

※50 科目に満たない場合は、全て貼付すること。

なお、貼付する科目の選定については、大学の任意となるが、「多文化共修科目」の
全体像をつかむことを目的としているため、類似した科目ばかりとならないよう留意
すること。

※申請大学：●●大学（1～8）※該当がある場合に記載。

(3-2) 多文化共修科目一覧表 【正課外科目】									
課程	期間（※1）	取組名（※2）	参加目標人数（※3）			【目標】最終（R11）年度における、 履修目標人数に対する 外国人学生の履修割合（※4）	取組の概要（※5） （最大150字程度）	事業開始3年目までに実施予定の取組を記入	
			令和7年度	令和8年度	令和11年				
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									

・削除・編集をしないこと。

・該当がない場合は、表貼付け箇所に、「該当なし」と記入すること。

・単独申請の場合

→ 正課科目欄と同様。

※データ集の作成は30科目。

※正課外科目の設定が30科目未満の場合は、該当する科目分を全て貼付すること。

貼付については、記入内容がA4サイズで目視できるサイズで、拡大・縮小等を行い、対応すること。（1～8の貼付は例示）

・ページ数が複数ページとなる場合は、上記赤枠囲みの内容を残したうえで、前ページからの連番で作成すること。

審査項目② 「(2-2) 多文化共修科目」欄、うち正課外の取組に記載する特色ある科目については、1行目から順に記載すること。

・複数大学連携での申請の場合

→ 「申請大学」の貼付を単独申請と同様に行った後、
連携校分も同様に対応すること。

※連携校が多数の場合の記載順については、「計画調書 1」の
1 枚目に記載したとおりとする。

※データ集より、該当の方法により貼付け。

・複数大学連携での申請の場合、「データ集」においては、連携校毎のシート作成が必要となるが、「計画調書 1」への貼付については、上段の「申請大学」及び他の「連携校」の貼付科目と合わせて、合計 30 科目分を貼付すること。

※30 科目に満たない場合は、全て貼付すること。

なお、貼付する科目の選定については、大学の任意となるが、「多文化共修科目」の全体像をつかむことを目的としているため、類似した科目ばかりとならないよう留意すること。

審査項目⑤ プログラム成果の先進性と普及 【1 ページ以内】

以下の内容の実現に向けた計画を明確にしてください。

- ・ プログラム成果は、費用対効果を勘案して、自大学だけでなく我が国の高等教育全体にとっても先進性を有するものであるか、また、先駆的なモデルとなり、取組を波及させる手法及び計画が見込まれるものであるかについて分かるように記入してください。

- ・ 上記の観点に留意し、プログラム成果の先進性と普及計画について明確に記入すること。
- ・ 年表記は、西暦で記入すること。
- ・ 簡潔に、分かりやすく記入すること。

審査項目⑥ 経費の事業内容との関係性・整合性・妥当性 【1 ページ以内】

- ・ 他の公的資金との重複はないか。
- ・ 申請経費の内容は明確かつ妥当であり、計画上必要不可欠なものか。
- ・ 過大な積算となっていないか。

- ・ 上記の観点に留意し、経費の事業内容との関連性・整合性・妥当性について明確に記入すること。
- ・ 年表記は、西暦で記入すること。
- ・ 簡潔に、分かりやすく記入すること。

審査項目③ 成果目標の設定

合計

1) 多文化共修科目数

・単独申請の場合、本シートは使用しないこと。
 ・【代表校】、【連携校】のシートから自動計算されるため、このシートは原則編集しないこと。ただし、『8) その他 任意指標』については、指標設定や行追加等に併し適宜、編集を行い、内容や合計に誤りがないよう注意すること。
 ※ 国内連携大学等が5大学以上となる場合、合計シートの編集はせず、事前に「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業プログラム委員会事務局」まで連絡すること。

(合計)	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)
科目数			
正課科目数			
うち多文化共修科目数			
【①の内訳】			
・ 学士	0 人	0 人	0 人
・ 各指標事項において該当する部分 (内のセル) をコピーし、計画調書の指定場所に貼付すること。			
・			
・			
※ 計画調書の記入要領を参照			
※ 以下同様			
①の参加学生数 (A: B+C)	0 人	0 人	0 人
うち日本人学生数 (B)	0 人	0 人	0 人
うち外国人学生数 (C)	0 人	0 人	0 人
【Aの内訳】			
・ 学士	0 人	0 人	0 人
・ 博士前期	0 人	0 人	0 人
・ 博士後期	0 人	0 人	0 人
学生総数	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)
学生総数 (D: E+F)	0 人	0 人	0 人
日本人学生数 (E)	0 人	0 人	0 人
外国人学生数 (F)	0 人	0 人	0 人

※「外国人学生」は、原則として日本国籍以外の学生（「留学」の在留資格を有さない短期留学生を含む）とし、申請大学に所属する外国籍の学生をいう。

※「学生総数」は、各年度通年の数値を記入すること（全学生数とは異なる）。

2) 多文化共修科目に関連する担当教員や多文化共修に関連するTA・SAの数

(合計)		各年度5月1日の数値を記入		
担当教員数	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)	
教員総数 (A)	0 人	0 人	0 人	
うち多文化共修科目の担当教員数 (B)	0 人	0 人	0 人	
割合 (B/A)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
※「教員総数」は、従前の大学設置基準第十二条で定める「専任教員」の数値を記入すること。				

・貼付の際は、緑枠囲み部分は非表示とする。
 その際、他の箇所が非表示とならないよう注意すること。

※「多文化共修に関連して雇用するSA」は、外国人留学生の学生生活や授業外での学習等を補助する業務を担う学生を指すため、必ずしも授業によるものではない。

3) 多文化共修科目に関連して、連携する地方公共団体や企業、NPO・NGO・国際機関等の数

(合計)		各年度通年の数値を記入		
	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)	
連携する地方公共団体の数	0 件	0 件	0 件	
連携する企業等の数	0 件	0 件	0 件	
連携するNGO・NPO・国際機関等の団体	0 件	0 件	0 件	

※多文化共修科目（正課科目、正課外科目）に関連して、連携する合計値を記入すること。

4) 日本人学生の海外留学人数・割合

※ 要件：事業計画最終年度的人数が、令和5年度比220%以上もしくは全学生数の3割以上に設定すること

(合計)		各年度通年の数値を記入			
	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)	令和5年度比	
日本人学生数 (A)	0 人	0 人	0 人		
日本人学生の海外留学人数 (B)	0 人	0 人	0 人	#DIV/0!	
うち、多文化共修科目に関連して海外留学する 日本人学生数 (C)	0 人	0 人	0 人		
【内訳】	・オレンジ色のセルが、公募要領に定める 要件を満たしているか確認すること。 ※ 以下同様				
①短期留学人数				0 人	
②中期留学人数				0 人	
③長期留学人数				0 人	
割合 (B/A)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!		

※多文化共修科目に関連して海外留学する日本人学生数は、「正課科目」及び「正課外科目」による合計値を記入すること。

5) 外国人留学生数・割合

※ 要件：事業計画最終年度の人数が、令和5年度比140%倍以上もしくは全学生の3割以上に設定すること

(合計)		各年度5月1日の数値を記入		
		令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)
全学生数 (A)		0 人	0 人	0 人
※「全学生数」は、学校基本調査の定義によるものとする（非正規課程の学生を含む）。				
		各年度通年の数値を記入		
外国人留学生数（※短期留学生含む） (B)		0 人	0 人	0 人
【内訳1】				
うち、外国人留学生数（※短期留学生含まず）		0 人	0 人	0 人
うち、短期留学生数		0 人	0 人	0 人
割合 (B/A)		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

※ここで定める「外国人留学生」とは、外国人学生のうち、「出入国管理及び難民認定法」別表第1に定める「留学」の在留資格により、申請大学において教育を受ける学生、及び「留学」の在留資格を有さない短期留学生も含めるものとする。

6) 外国人留学生の国内及び地域への就職人数・割合

※ 要件：事業計画最終年度の進学者数を除く国内での就職希望者の6割以上を占めること

(合計)		各年度内に卒業・修了する者に対して行った調査の数値を記入		
		令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)
外国人留学生のうち就職希望者数①		0 人	0 人	0 人
【①の内訳】				
・国内就職希望者数 (ア)		0 人	0 人	0 人
・海外就職希望者数 (イ)		0 人	0 人	0 人
外国人留学生のうち就職者数②		0 人	0 人	0 人
・②のうち、国内就職者数 (ウ)		0 人	0 人	0 人
【割合】 国内就職者数 (ウ) / 国内就職希望者数 (ア)		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

※「外国人留学生」：「留学」の在留資格（短期留学生を含む）

- ・（指標1）、（指標2）…を削除し、大学独自の定量的指標を記入すること。
- ・「期待される取組(加算事項)」に関する指標を設定することが望ましい。
- ・指標を作成する日付等については、設定した指標に合わせた任意のものとする。
- ・設定した日付や指標に補足がある場合は、表下段に※でその内容を適宜記入すること。
- ・計画調査への貼付については、表下段に設定した「※」部分も含め、貼付を行うこと。

8) その他 任意指標

(合計)		各年度任意の数値を記入		
		令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)
(指標1)		0	0	0
(指標2)		0	0	0

※各年度通年の数値を記入。

※（指標1）に設定した●●は、～とする。

※（指標2）に設定した●●は、～とする。

- ・記入しない行は削除すること。
- ・行が不足する場合は、適宜追加すること。
- ・行の追加を行う際は、【代表校】と【連携校】の合計となるよう注意すること。

単独申請シート又は代表校シート

審査項目③ 成果目標の設定

大学名：

1) 多文化共修科目数・参加学生数

記入不要。※1行目よりデータ反映

・申請大学名を記入。

(大学名：) 各年度通年の数値を記入

科目数等	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)
------	----------------	----------------	-----------------

正課科目数

うち多文化共修科目数 ①

・下記の【①の内訳】の合計(=学士+博士前期+博士後期)と一致させること。
※計算式漏れのため、要確認。

・単独申請の場合、本シートのみを使用すること。(← 審査項目③ 1)～6), 8))
※なお、不要なシート(【合計】、【連携校1】～【連携校4】)は削除し、提出すること。

・複数連携での申請の場合、本シートに代表校の内容を記入し、【連携校1】以降のシートに連携する大学の内容をそれぞれ作成すること。
※なお、【連携校1】～【連携校4】のシートは、連携校数によらず削除しないこと。

参加学生数 (実績値) (目標値) (目標値)

①の参加学生数 (A : B + C)

0 人

0 人

0 人

うち日本人学生数 (B)

うち外国人学生数 (C)

【Aの内訳】

・学士

・博士前期

・博士後期

・①の参加学生数 (A) と【Aの内訳】の合計(=学士+博士前期+博士後期)が一致しているかご確認ください。

・各指標事項において該当する部分(□内のセル)をコピーし、計画調書の指定場所に貼付すること。

学生総数

日本人学生

外国人学生

※ 計画調書の記入要領を参照
※ 以下同様

※「外国人学生」は、原則として日本国籍以外の学生(「留学」の在留資格を有さない短期留学生を含む)とし、申請大学に所属する外国籍の学生をいう。

※「学生総数」は、各年度通年の数値を記入すること(全学生数とは異なる)。

2) 多文化共修科目に関連する担当教員や多文化共修に関連するTA・SAの数

(大学名：) 各年度5月1日の数値を記入

担当教員数	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)
-------	----------------	----------------	-----------------

教員総数 (A)

うち多文化共修科目の担当教員数 (B)

割合 (B/A)

#DIV/0!

#DIV/0!

#DIV/0!

※「教員総数」は、従前の大学設置基準第十二条で定める「専任教員」の数値を記入すること。

年間の総数(のべ)の数値を記入

TA・SA数

・貼付の際は、緑枠囲み部分は非表示とする。
その際、他の箇所が非表示にならないよう注意すること。

TA・SA総数 (C)

うち多文化共修に関連して雇用する
TA・SA数 (D)

※「多文化共修に関連して雇用するSA」は、外国人留学生の学生生活や授業外での学習等を補助する業務を担う学生を指すため、必ずしも授業によるものではない。

(大学名)

3) 多文化共修科目に関連して、連携する地方公共団体や企業、NPO・NGO・国際機関等の数

(大学名:)	各年度通年の数値を記入		
	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)
連携する地方公共団体の数			
連携する企業等の数			
連携するNGO・NPO・国際機関等の団体			

※多文化共修科目（正課科目、正課外科目）に関連して、連携する合計値を記入すること。

4) 日本人学生の海外留学人数・割合

※ 要件：事業計画最終年度の人数が、令和5年度比220%以上もしくは全学生数の3割以上に設定すること

(大学名:)	各年度通年の数値を記入			
	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)	令和5年度比
日本人学生数（A）	0人	0人	0人	
日本人学生の海外留学人数（B）				#DIV/0!
うち、多文化共修科目に関連して海外留学する日本人学生数（C）	0人	0人	0人	
【内訳】				
①短期留学人数				
②中期留学人数				
③長期留学人数				
割合（B/A）	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	

※多文化共修科目に関連して海外留学する日本人学生数は、「正課科目」及び「正課外科目」による合計値を記入すること。

・オレンジ色のセルが、公募要領に定める要件を満たしているか確認すること。
※ 以下同様

5) 外国人留学生数・割合

※ 要件：事業計画最終年度の人数が、令和5年度比140%倍以上もしくは全学生の3割以上に設定すること

(大学名：)		各年度5月1日の数値を記入		
	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)	
全学生数 (A)				
※「全学生数」は、学校基本調査の定義によるものとする（非正規課程の学生を含む）。				
				通年の数値を記入
				令和11年度
				令和5年度比
外国人留学生数（※短期留学生含む） (B)	0 人	0 人	0 人	#DIV/0!
【内訳1】				
うち、外国人留学生数（※短期留学生含まず）				
うち、短期留学生数				
割合 (B/A)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	

・貼付の際は、緑枠囲み部分は非表示とする。
その際、他の箇所が非表示とならないよう注意すること。

※ここで定める「外国人留学生」とは、外国人学生のうち、「出入国管理及び難民認定法」別表第1に定める「留学」の在留資格により、申請大学において教育を受ける学生、及び「留学」の在留資格を有さない短期留学生も含めるものとする。

6) 外国人留学生の国内及び地域への就職人数・割合

※ 要件：事業計画最終年度の進学者数を除く国内での就職希望者の6割以上を占めること

(大学名：)		各年度内に卒業・修了する者に対して行った調査の数値を記入		
	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)	
外国人留学生のうち就職希望者数①	0 人	0 人	0 人	
【①の内訳】				
・国内就職希望者数 (ア)				
・海外就職希望者数 (イ)				
外国人留学生のうち就職者数②				
・②のうち、国内就職者数 (ウ)				
【割合】 国内就職者数 (ウ) / 国内就職希望者数 (ア)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	

※「外国人留学生」：外国人学生のうち、「出入国管理及び難民認定法」別表第1に定める

「留学」の在留資格を有する学生、及び「留学」の在留資格を有さない短期留学生を含むものとする。

- ・（指標1）、（指標2）…を削除し、大学独自の定量的指標を記入すること。
- ・「期待される取組(加点事項)」に関する指標を設定することが望ましい。
- ・指標を作成する日付等については、設定した指標に合わせた任意のものとする。
- ・設定した日付や指標に補足がある場合は、表下段に※でその内容を適宜記入すること。

8) その他 任意指標

(大学名：)		各年度任意の数値を記入		
	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)	
(指標1)				
(指標2)				

※各年度通年の数値を記入。
※（指標1）に設定した●●は、～とする。
※（指標2）に設定した●●は、～とする。

- ・記入しない行は削除すること。
- ・行が不足する場合は、適宜追加すること。
- ・行の追加を行う際は、【代表校】と【連携校】の合計となるよう注意すること。

- ・数値については半角で記入すること。
- ・小数は、第2位を四捨五入して、第1位まで記入すること。

審査項目③ 成果目標の設定

大学名：

1) 多文化共修科目数・参加学生数

・連携大学名を記入してください。

(大学名：)		各年度通年の数値を記入		
正課科				
うち				
【①】				
・ 学士				
・ 博士前期				
・ 博士後期				
参加学生数	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)	
①の参加学生数 (A : B + C)	0 人	0 人	0 人	
うち日本人学生数 (B)				
うち外国人学生数 (C)				
【Aの内訳】				
・ 学士				
・ 博士前期				
・ 博士後期				
学生総数	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)	
学生総数 (D : E + F)	0 人	0 人	0 人	
日本人学生数 (E)				
外国人学生数 (F)				

※「外国人学生」は、原則として日本国籍以外の学生（「留学」の在留資格を有さない短期留学生を含む）とし、申請大学に所属する外国籍の学生をいう。

※「学生総数」は、各年度通年の数値を記入すること（全学生数とは異なる）。

2) 多文化共修科目に関連する担当教員や多文化共修に関連するTA・SAの数

(大学名：)		各年度5月1日の数値を記入		
担当教員数	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)	
教員総数 (A)				
うち多文化共修科目の担当教員数 (B)				
割合 (B / A)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	

※「教員総数」は、従前の大学設置基準第十二条で定める「専任教員」の数値を記入すること。

年間の総数（のべ）の数値を記入				
TA・SA数	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)	
TA・SA総数 (C)				
うち多文化共修に関連して雇用する TA・SA数 (D)				

※「多文化共修に関連して雇用するSA」は、外国人留学生の学生生活や授業外での学習等を補助する業務を担う学生を指すため、必ずしも授業によるものではない。

3) 多文化共修科目に関連して、連携する地方公共団体や企業、NPO・NGO・国際機関等の数

(大学名：)

各年度通年の数値を記入

	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)
連携する地方公共団体の数			
連携する企業等の数			
連携するNGO・NPO・国際機関等の団体			

※多文化共修科目（正課科目、正課外科目）に関連して、連携する合計値を記入すること。

4) 日本人学生の海外留学人数・割合

※ 要件：事業計画最終年度的人数が、令和5年度比220%以上もしくは全学生数の3割以上に設定すること

(大学名：)

各年度通年の数値を記入

	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)	令和5年度比
日本人学生数（A）	0 人	0 人	0 人	
日本人学生の海外留学人数（B）				#DIV/0!
うち、多文化共修科目に関連して海外留学する 日本人学生数（C）	0 人	0 人	0 人	
【内訳】				
①短期留学人数				
②中期留学人数				
③長期留学人数				
割合（B／A）	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	

※多文化共修科目に関連して海外留学する日本人学生数は、「正課科目」及び「正課外科目」による合計値を記入すること。

5) 外国人留学生数・割合

※ 要件：事業計画最終年度の人数が、令和5年度比140%倍以上もしくは全学生の3割以上に設定すること

(大学名：)		各年度5月1日の数値を記入		
		令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)
全学生数 (A)				

※「全学生数」は、学校基本調査の定義によるものとする（非正規課程の学生を含む）。

各年度通年の数値を記入				
	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)	令和5年度比
外国人留学生数（※短期留学生含む） (B)	0 人	0 人	0 人	#DIV/0!
【内訳1】				
うち、外国人留学生数（※短期留学生含まず）				
うち、短期留学生数				
割合 (B/A)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	

※ここで定める「外国人留学生」とは、外国人学生のうち、「出入国管理及び難民認定法」別表第1に定める「留学」の在留資格により、申請大学において教育を受ける学生、及び「留学」の在留資格を有さない短期留学生も含めるものとする。

6) 外国人留学生の国内及び地域への就職人数・割合

※ 要件：事業計画最終年度の進学者数を除く国内での就職希望者の6割以上を占めること

(大学名：)		各年度内に卒業・修了する者に対して行った調査の数値を記入		
		令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)
外国人留学生のうち就職希望者数①		0 人	0 人	0 人
【①の内訳】				
・国内就職希望者数 (ア)				
・海外就職希望者数 (イ)				
外国人留学生のうち就職者数②				
・②のうち、国内就職者数 (ウ)				
【割合】 国内就職者数 (ウ) / 国内就職希望者数 (ア)		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

※「外国人留学生」：外国人学生のうち、「出入国管理及び難民認定法」別表第1に定める「留学」の在留資格により、申請大学において教育を受ける学生とする。
(短期留学生を含まず)

・8) その他項目についても、代表校と同一の任意指標を設定すること。
(設定する日付や指標の補足についても原則、代表校と条件を揃えること。)

8) その他 任意指標

(大学名：)		各年度任意の数値を記入		
		令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)
(指標1)				
(指標2)				

※各年度通年の数値を記入。

※ (指標1) に設定した●●は、～とする。

※ (指標2) に設定した●●は、～とする。

審査項目③ 成果目標の設定

大学名：

1) 多文化共修科目数・参加学生数

(大学名：)

【連携校1】シートの記入要領参照

を記入

連携校2以降のシート

科目数等	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)
正課科目数			
うち多文化共修科目数 ①			
【①の内訳】			
・ 学士			
・ 博士前期			
・ 博士後期			
参加学生数	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)
①の参加学生数 (A : B + C)	0 人	0 人	0 人
うち日本人学生数 (B)			
うち外国人学生数 (C)			
【Aの内訳】			
・ 学士			
・ 博士前期			
・ 博士後期			
学生総数	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)
学生総数 (D : E + F)	0 人	0 人	0 人
日本人学生数 (E)			
外国人学生数 (F)			

※「外国人学生」は、原則として日本国籍以外の学生（「留学」の在留資格を有さない短期留学生を含む）とし、申請大学に所属する外国籍の学生をいう。

※「学生総数」は、各年度通年の数値を記入すること（全学生数とは異なる）。

2) 多文化共修科目に関連する担当教員や多文化共修に関連するTA・SAの数

(大学名：)

各年度5月1日の数値を記入

担当教員数	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)
教員総数 (A)			
うち多文化共修科目の担当教員数 (B)			
割合 (B / A)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

※「教員総数」は、従前の大学設置基準第十二条で定める「専任教員」の数値を記入すること。

年間の総数（のべ）の数値を記入

TA・SA数	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)
TA・SA総数 (C)			
うち多文化共修に関連して雇用する TA・SA数 (D)			

※「多文化共修に関連して雇用するSA」は、外国人留学生の学生生活や授業外での学習等を補助する業務を担う学生を指すため、必ずしも授業によるものではない。

(大学名)

審査項目③ 成果目標の設定

代表校（申請大学）分のみ要作成。

7) プログラム実施の前提となる大学の国際化

大学名	
(SGU採択の有無)	

・申請大学名を記入。

・プルダウンから選択。

【全体情報】			
各年度5月1日の数値を記入			
	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)
A. 全学生数			
B. 全専任教員			

※「全学生数」は、学校基本調査の定義によるものとする（非正規生課程の学生を含む）。
※「専任教員」は、従前の大学設置基準第十二条で定める「専任教員」の数値を記入すること。

各年度通年の数値を記入			
	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)
C. 全授業科目			

※「授業科目」は、「授業総数」を記入すること。
・オレンジ色のセルが、公募要領に定める要件を満たしているか確認すること。
※ 以下同様

【人数、科目】			
各年度通年の数値を記入			
	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)
i) 外国人留学生（※短期留学生含む）			
iii) 外国語による授業			

※ここで定める「外国人留学生」とは、外国人学生のうち、「出入国管理及び難民認定法」別表第1に定める「留学」の在留資格により、申請大学において教育を受ける学生、及び「留学」の在留資格を有さない短期留学生も含めるものとする。

各年度5月1日の数値を記入			
	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)
ii) 外国人教員			

※「外国人教員」は、従前の大学設置基準第十二条で定める「専任教員」のうち、該当する数値を記入すること。

【割合】			
	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)
i) 外国人留学生	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
ii) 外国人教員	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
iii) 外国語による授業	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

※： i) 外国人留学生の割合は、全学生数に占める年間の外国人留学生
ii) 外国人教員の割合は、全専任教員に占める外国人教員
iii) 外国語による授業は、全授業科目に占める外国語により実施される授業科目（語学としての授業を除く）

【記入要領】
1_【全体情報】及び【人数、科目】の各欄を年度ごとに記入すること。
2_割合は、小数点以下第1位まで計算（第2位を四捨五入）とする。

審査項目④ プログラム計画の適切性

(3-1) 多文化共修科目一覧表 【正課科目】

大学名：

事業開始3年目までに実施予定の科目を記入										科目の概要(※6) (最大150字程度)	
課程	学部(※1)	年次	単位数	学期(※2)	科目区分	科目名(※3)	開設年度	履修目標人数(※4)			【目標】最終(R1)年度における、 履修目標人数に対する 外国人学生の履修割合(※5)
								令和7年度	令和8年度	令和11年度	
	</										

審査項目④ プログラム計画の適切性

(3-2) 多文化共修科目一覧表 【正課外科目】

大学名：

申請大学名を記入。

事業開始3年目までに実施予定の取組を記入

課程	期間 (※1)	取組名 (※2)	参加目標人数 (※3)			【目標】最終 (R11) 年度における、 履修目標人数に対する 外国人学生の履修割合 (※4)	取組の概要 (※5) (最大150字程度)
			令和7年度	令和8年度	令和11年		
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							

・連携大学がある場合、本シートの直後にコピーシートを差し込んで、大学毎にそれぞれ作成すること。
・その際、シート名は「審査項目④ プログラム計画の適切性 (正課外科目) 【連携校1】」、「審査項目④ プログラム計画の適切性 (正課外科目) 【連携校2】」…等に行うこと。
・※作成順については、「計画調書1」の1ページ目に記入した順番とする。

・多文化共修正課科目のうち、正課外科目を30科目記入。(※行の追加は不可)
・正課外科目が30科目に満たない場合は、全て記入すること。
・記入する科目については、大学の任意だが、類似した科目ばかりとならないよう留意すること。
・本シートより、審査項目②「(2-2) 多文化共修科目」欄、うち正課外の取組に記載する特色ある科目については、上から順 (1科目目の行から3科目目の行まで) とし、上から順に対応させて作成すること。

審査項目⑥ 補助期間における各経費の明細【年度ごとに1ページ】

補助金申請ができる経費は、当該事業の遂行に必要な経費であり、本プログラムの目的である大学の国際化によるソーシャルインパクト創出のための使途に限定されます。（令和6年度大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業公募要領参照。）

（単位：千円）

＜令和6年度＞	経 費 区 分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	プログラム 規模 (①+②)	備考
	〔物品費〕				
	①設備品費				
	・				
	・				
	②消耗品				
	・				
	・				
	〔人件費〕				
	①人件費				
	・				
	・				
	②謝金				
	・				
	・				
	〔旅費〕				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	〔その他〕				
	①外注費				
	・				
	・				
	②印刷製本費				
	・				
	・				
	③会議費				
	・				
	・				
	④通信運搬費				
	・				
	・				
	⑤光熱水料				
	・				
	・				
	⑥その他（諸経費）				
	・				
	・				
	・				
令和6年度	合計				

「経費区分」欄
○ 区分については、令和6年度大学教育再生戦略推進費「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」公募要領の（別添3）経費の使途可能範囲を参照。
○ 費目の内訳は、内容がある程度分かるように記入。
記載例：教材印刷費 ○○○千円
○○部×@○○○円
：謝金 ○○○千円
○○人×@○○○円

大学負担額を計上している場合、各費目内訳を記入。

○ 年度ごとの「補助金申請額」、「大学負担額」及び「プログラム規模」の各合計が、タイプⅠ計画調書（ワード）基本情報ページの「本プログラム経費」各欄の金額と一致させること。
○ 配分額については、
・補助期間最終年度の2年前年は当初配分額の70％に
・補助期間最終年度の前年は当初配分額の50％に
・最終年度は当初配分額の30％になることを前提に作成すること。

（大学名： ） （タイプ：Ⅰ）